

『運動器臨床解剖学—チーム秋田の「メゾ解剖学」基本講座—』

正誤表

本書におきまして、下記2点の誤りがございましたので、赤字の如く訂正をいたします。
読者の皆様には深くお詫び申し上げます。

2020年6月 株式会社 全日本病院出版会

【訂正箇所1】 P.26 図5-a 説明文

誤)

右肩関節包を関節唇と上腕二頭筋長頭腱(LHB)ごと摘出し、平面上に展開して関節側より観察している。上腕骨付着部のうち、肩甲下筋腱停止部下縁(丸)、腋窩囊(三角)、棘上筋と小円筋の境界(四角)に対応する部位が表記されている。

正)

右肩関節包を関節唇と上腕二頭筋長頭腱(LHB)ごと摘出し、平面上に展開して関節側より観察している。上腕骨付着部のうち、肩甲下筋腱停止部下縁(丸)、腋窩囊(三角)、棘下筋と小円筋の境界(四角)に対応する部位が表記されている。

【訂正箇所2】 P.48 左段 14行目から

誤) 上記の手法で、棘上筋を上腕骨大結節部から剥離すると、棘上筋の停止部は大結節上面の前外側にまで到達しており、従来考えられていたより大結節を広く覆っていることがわかった(図4-b)。

正) 上記の手法で、棘上筋を上腕骨大結節部から剥離すると、棘下筋の停止部は大結節上面の前外側にまで到達しており、従来考えられていたより大結節を広く覆っていることがわかった(図4-b)。